

川崎市重要歴史記念物指定記念現地特別公開

あんどうけながやもん

安藤家長屋門

【公開日】平成24年12月1日（土）

【時間】10:00～15:00

【所在地】中原区小杉陣屋町1丁目13番3号

観覧無料



長屋門正面口



僕が解説するよ！
シッシシッ



文化財保護活用推進キャラクター
シッシー君

新しく指定された文化財だよ！
皆さん見に来てくださいッシー★

安藤家は川崎市中原区小杉陣屋町に所在する旧家です。江戸時代には橘樹郡小杉村の割元名主わりもとなぬしとして、代官の指揮下で近隣の村々の名主を統括していました。

今回新しく市の指定文化財となった安藤家長屋門あんどうけながやもんは、19世紀中期～後期頃に建築されたと推定されています。建築当時の部材がよく残っており、幕末頃の割元名主わりもとなぬしの屋敷にふさわしい堂々とした長屋門です。中原街道沿いに残された歴史的景観としても重要な文化財です。

主催 川崎市教育委員会

問合せ 教育委員会文化財課 電話:044-200-3305 FAX:044-200-3756

安藤家長屋門

(中原区小杉陣屋町1丁目)



文化財保護活用推進キャラクター
シッシー君

年代:幕末頃(19世紀中期～後期頃)

構造:木造平屋建て(中2階あり)、寄棟造、
檼瓦葺背面両脇に差し掛け屋根根檼瓦葺・
吹き放し下屋附属

主体部 桁行13.393m(44.2 尺)

梁行4.575m(15.1 尺)

東室下屋 桁行 4.878m(16.1 尺)

梁行 1.212m(4.0 尺)

西室下屋 桁行 3.212m(10.6 尺)

梁行 1.212m(4.0 尺)

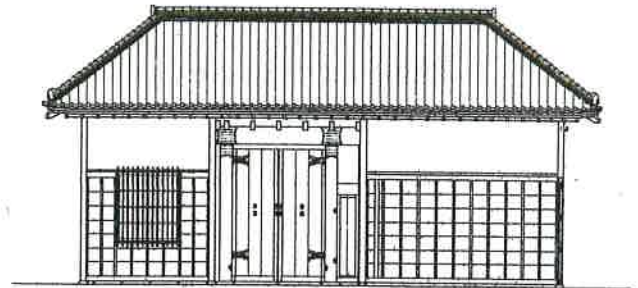
指定:市指定文化財(重要歴史記念物)

平成24年(2012)11月27日指定

発行:川崎市教育委員会

川崎市川崎区宮本町6番地

044-200-3305



<長屋門正面立面図>

【安藤家の歴史について】

安藤家の先祖は小田原の後北条氏に仕えていた安藤大炊助重虎あんどうおおいのすけしげとらで、後北条氏滅亡後に小杉村に土着帰農したと伝えられています。江戸時代には橘樹郡小杉村わりもとなぬしの割元名主として、代官の指揮下で近隣の村々の名主を統括していました。

【安藤家長屋門の特徴】

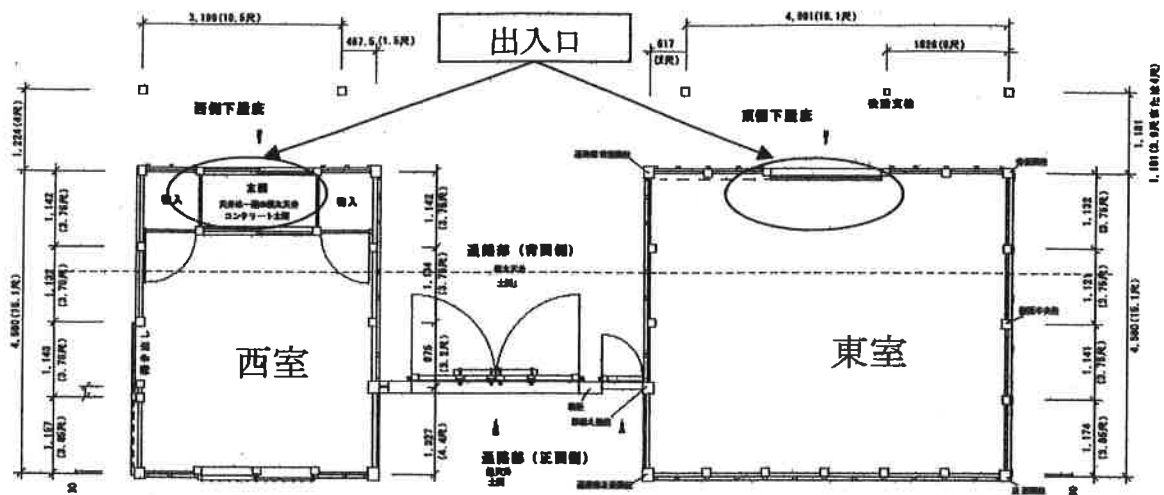
扉構えが豪華で、柱・扉・冠木かぶき・出梁だしばり・鏡天井まですべて檜けやきを用いて、扉金具などを豊富に取り付け、親柱と冠木の取合部を化粧金具で飾っています。

明治以降の長屋門は軒が高く、2階建てのものが少なくありませんが、安藤家長屋門は、基本的に平屋建の外観を持ち、天井裏を中2階として用いているのが特徴です。



<長屋門正面>

長屋門本来の屋根の形式は茅葺でしたが、大正7年に現在の檼瓦葺屋根に改造したと見られます。



通路部(正面側)
 <長屋門平面図>

通路部は正面から1.327m(約4.4尺)引き込んで扉を設け、東西に各1室を設けています。東西両室とも建築当初は土間床で、背面の出入口以外に開口を持たない、閉鎖的な空間でした。両室の背面には梁行1.224m(約4尺)の棧瓦葺・差し掛けの下屋が付けられています。下屋は本来西室にのみ存在していましたが、大正7年の屋根の改造時に東室にも新設されたと考えられます。使用目的は両室とも収納用と考えられ、東室は納屋的、西室はそれより上等の倉庫として使われていたと推察されます。

【歴史的意義】

安藤家長屋門は茅葺から棧瓦葺への変更や西室の居室への改造などが見られますが、基本的に建築当時の部材をよく留め、建築当初の形式もほぼ判明していて、幕末頃の割元名主屋敷にふさわしい堂々とした長屋門です。

特に、扉構えは柱から天井・扉に至るまで櫓を贅沢に使用しており、豪華で力強く、豊富な化粧金具がそれを引きたてていて見応えがあります。

中原街道沿いに残された歴史的景観としても重要な存在であります。

*本長屋門は、個人所有の建造物です。見学の際には、住人及び近隣の方々の、ご迷惑にならぬようご注意ください。